

24トラック DSD レコーダーエディター ～ 和訳版 ～

Super Audio Center LLC は自信を持って24トラックレコーダーエディター“Sonoma24”をご紹介します。このシステムは Super Audio CD(SA-CD)フォーマットの普及のためにソニー株式会社が開発した技術を継承し、現在リリースされている SA-CD タイトルの制作において世界中で使用された実績を持つものです。

Sonoma24 はプロ仕様のマルチトラックレコーダーであり、また編集ポイントにおけるゲインや位相変更も可能な編集機能も備えています。そしてこれら全てのプロセスは DSD (Direct Stream Digital)ドメインで動作するシステムです。

<最高の音質>

システムはプロ仕様の ST オプティカルケーブルでエドマイトナー氏デザインの DSD コンバータに接続されます。これにより様々なノイズが発生する環境でも高音質を実現し、たとえコンバータがシステム本体から遠くはなれていてもそのクオリティを維持することができます。また専用のオプティカルクロックを使用しているため、クロックだけでなくデータ信号のジッター軽減にも役立っています。

—Sonoma システムがマイトナーコンバータとオプティカル接続されたとき、レコーディングや編集において今日最も音楽的に素直で忠実な音を得ることができる、以上！

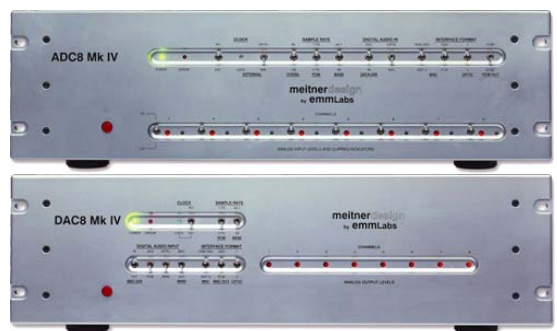
～DMP レコード代表 Tom Jung

—DSD のおかげで、我々はデジタル録音の真の能力により近づくことができる。Sonoma は私にとって最も音質的にすぐれたシステムで、ミックスには欠かせないものになった。新しい24トラックシステムがどれだけ素晴らしいか想像できるよ

～プロデューサー Michael Beinhorn

<世界中のスタジオに最適なシステム>

Sonoma24 システムは世界中のハイエンドアナログスタジオにおいて、既存のどんなデジタルレコーダーやワークステーションでも到達することのできない、一クラス上の高音質をご提供いたします。Sonoma24 はデジタルでありながら 2.8MHz という高速サンプリングにより、アナログに近い自然な音質をお約束。96kHz や 192kHz、更には 384kHz のサンプリング周波数で動作するデジタルシステムでも同じ音質を実現することはできません。

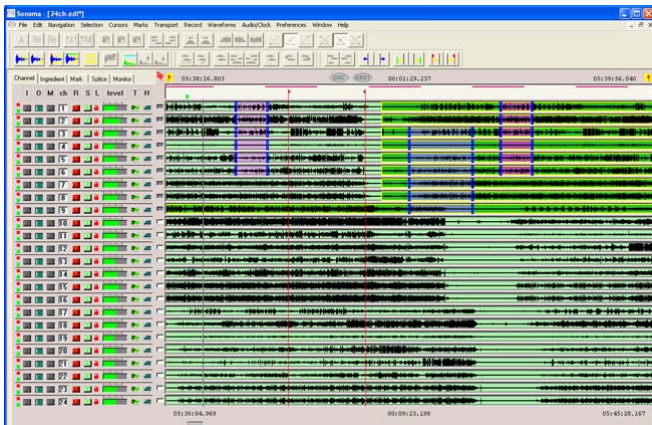


<信頼性>

Sonoma は既に 1000 タイトルをゆうに超える SA-CD 制作に使用され、実績を培ってきました。レコーディング・編集・マスタリングの各ステージにおいて長年にわたり重要な役割を果たし、Sonoma システムはその信頼性を証明してきたのです。

<<Sonoma システムの特徴>>

- 独立したオプティカルクロックによる高音質
- 全プロセス DSD による録音・編集、レベル調整
- リアルタイムクロスフェード(編集ポイントでは 48 トラックの DSD 信号を再生)
- オーバーダビング、パンチイン・パンチアウト機能
- 各種タイムコード生成と外部シンク対応
- 3 ポイント編集とオブジェクトベースの 2 つの編集機能
- SA-CD 用 Edit Master 生成機能
- 編集ポイントにおけるクロスフェードやレベルの変更
- SA-CD フォーマットに対応した信号のメータリング機能 (Annex D&E)
- スタジオメンテナンスエンジニアデザインによるフレキシブルなメーター機能
- 8トラックごとの拡張性(8、16、24トラックシステム)

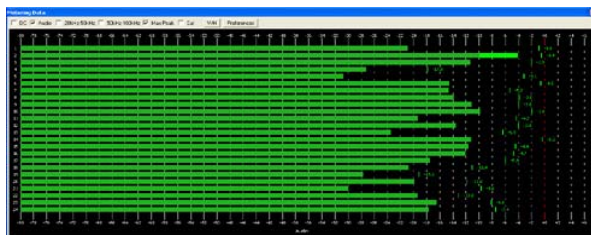


＜レコーダーとしての Sonoma＞

Sonoma システムのユーザーインターフェースを一目見れば、それがプロ仕様のマルチトラックレコーダーとしてシンプルなおものであることに気付くはず。実際はというと・・・まさにその通り。全てのチャンネルに、インプット・リプロ・セーフモード・レディボタンを用意。すでに録音状態であっても、あとから追加で各チャンネルごとに録音したり、録音モードを抜いたりすることが可能、事前にトリガーをかけるチャンネルをグルーピングしておくこともできます。モニタースイッチも、オートインプットやマニュアル設定が可能です。更に新しく録音しながら、そのトラックの元の音を再生することもできます。パンチアウトすれば、そのポイントから元々録音されていた音にスムーズに切り替わります。また Sonoma の強力なフェードエンジンにより、前の作業に戻ってチェックをすることが必要なくなり、制作スピードを劇的に短縮することが出来ます。

＜Sonoma ヘミックスダウン＞

Sonoma システムはクロスフェードを含めるとトータル 48 トラックの DSD 信号を再生しながら、同時に 8 トラックの録音をすることが出来ます。つまりミックスダウン時の再生側マルチトラックマシンとマスターを録音するマスターレコーダの両方の動きをこれ 1 台で行えます。EDL を再生しながら同時に別の EDL に録音も可能なので、“Punching into the mix”もおやすい御用。オートメーションコンソールがなくても緻密なミックスが可能です。

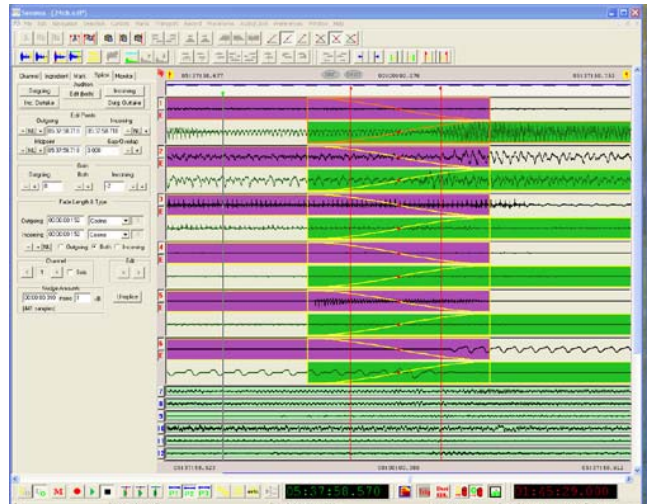


＜卓越したメーター機能＞

ソニー社製 TACHO チップを使用し、SA-CD のフォーマット“Scarlet Book”に準拠した AnnexD と E の厳密なメータリングが可能です。DC、オーディオ領域、高域(40kHz-100kHz)、Max Peak を同時、又は個別に見ることが出来ます。更に、ユーザーがセットした値を越えると自動的にマークをする機能も搭載しているので、後で検査や編集をすることが容易になります。元スタジオメンテナンス技術者によってキャリブレーションモードがデザインされているので、その正確さは世界中のエンジニアに喜ばれるでしょう。

＜SA-CD マスター制作＞

Sonoma はステレオ、サラウンド両方の Super Audio CD 用マスター制作においてなくてはならないシステムです。“Export to Master”機能を使えばスカーレットブックに準拠した DSDIFF フォーマットのマスターを生成することが可能。このマスターが SA-CD 対応の工場でおーサリングされディスクが完成します。また Sonoma システムでは品質チェックのために、このマスターファイルを再生することも可能です。



＜様々な要求にこたえる編集スタイル＞

Sonoma の歴史は商品としてではなく、SA-CD のタイトル制作の需要に応えるために作られたプロトタイプからはじまりました。初期の多くのタイトルはクラシック音楽だったので、編集に要求される精度は当初から高かったのです。クラシック音楽のエンジニアは、素早く音を聞きながら編集ポイントを探し出し、他の編集に影響を与えることなく目的のポイントをレベルを合わせながら調整していく、という作業を繰り返します。タイトルによっては 1000 ポイント以上の編集点が出来ることが稀ではありません。

—Sonoma はクラシック音楽の編集を簡単にしてくれました。他のシステムに比べてシンプルなので、少ないステップ・わずかな時間で完璧な編集が出来ます。はじめから編集ポイントの音がスムーズなので、編集ポイントを聞きなおす時間も減りました。タイトなスケジュールでタイトルリリースをするのにとっても助かっています。

～Telarc レコードディレクター Erica Brenner

当初もっとも大変な問題であった、時間軸ベースの 3 ポイントや 4 ポイントによる Source/Destination 編集をも実現し、またポピュラー音楽プロデューサーの要求を満足するイベントベースの編集機能も備えました。それら両方の編集方法の組み合わせがレコーダーでありエディターのこれからのスタンダードとなるでしょう。

Super Audio CD、SA-CD、DSD とそのロゴはソニー株式会社の商標、登録商標です。

Sonoma・Sonoma ロゴ・Super Audio Center のロゴは Super Audio Center, LLC の登録商標です。